

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子南砂2丁目保育園
施設所在地	東京都江東区南砂2-36-10
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

様々な表現を用いて、形に表す（運動遊びを通して）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

・昨年度のすくわくプロジェクトから導入した安田式体操。子どもたちがホールで遊ぶ度にエアーマット、平均台を使い身体を自由に動かし遊んでいく姿を見て今年度も引き続き子どもたちが身体を動かし自由に表現していく楽しさを感じていけるように取り入れていった。

## 2. 活動スケジュール

【朝運動スタート】安田式体操講師による体操指導

7月～毎朝9時～9時15分、朝の運動開始(幼児クラス)

【公園かけっこ】

11月1日～30日 1か月間毎朝子どもたちの体力向上のため保育園近くの公園でかけっこ(4,5歳児)

【朝運動拡大】

12月～サーキット、かけっこをメインで朝の運動(2.3歳クラス、4.5歳児クラス)の対象年齢と内容を拡大

【鉄棒・マットを常設開始】

12月～鉄棒、マット導入 室内に鉄棒、マットを設置  
いつでも鉄棒ができる環境で鉄棒への興味上昇

年間を通して、2-5歳児クラスは各クラスや異年齢での運動遊びの時にも器具を使ってサーキットや鉄棒遊びを行う

安田式体操講師による体操指導も定期的を実施

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

安田式体操 講師代

マット1セット、鉄棒2台

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

###### 【朝運動スタート】

7月～毎朝9時～9時15分、朝の運動開始(幼児クラス)  
毎朝の習慣になり、すっきりと活動を開始できる変化がある

###### 【公園かけっこ】

11月1日～30日 1か月間毎朝子どもたちの体力向上のため保育園近くの公園でかけっこ(4,5歳児)  
外に出かけることで、走りたい気持ちが増し走るのが苦手な子も楽しく参加できるようになり持久力がつく

###### 【朝運動拡大】

12月～サーキット、かけっこをメインで朝の運動(2.3歳クラス、4.5歳児クラス)の対象年齢と内容を拡大

エアーマット、鉄棒、マット、平均台、巧技台を使いサーキット、  
飛ぶ、跳ねる、転がる、走る、歩く、片足歩きなど様々な動作で行う  
運動のバラエティをつけることで、毎朝あきずに継続し、楽しみながら体の動かし方がしなやかになる

4歳児クラスでは日々のサーキットをアレンジし、発表会の場でマット、平均台、巧技台などを使い自分なりの表現で発表。(12月13日)

###### 【鉄棒・マットを常設開始】

12月～鉄棒、マット導入 室内に鉄棒、マットを設置

いつでも鉄棒ができる環境で鉄棒への興味上昇

講師による鉄棒指導から「逆上がりができるようになりたい」と思う子が増え、毎日触れていく中で出来るようになった子もでてくる。

2歳児クラスから鉄棒にぶら下がり遊ぶ姿が多く見られている。

年間を通して、2-5歳児クラスは各クラスや異年齢での運動遊びの時にも器具を使ってサーキットや鉄棒遊びを行う

安田式体操講師による体操指導も定期的を実施毎朝の運動

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

鉄棒での場面  
子ども①「先生逆上がりみててね」 保育者「見てるね」 逆上がり挑戦するも失敗  
保育者「あと少しだね」 子ども②「逆上がりするときに逆上がりって言ってやると力が入るよ」  
子ども①「分かった」 またも失敗  
数日後  
子ども①「先生みててね」 保育者「見てるね」 逆上がり成功  
保育者「すごい出来たね」 拍手する  
子ども①「前できるようになったもう簡単だよ」  
→子ども①はその後も鉄棒を得意気に行っている。

4歳児表現遊びでの場面  
絵本「やさいのパーティーおおさわぎ」の物語から表現遊びへ  
自分たちの役になり  
子ども①「巧技台の穴の開いてるところからトンネルにてでるのはどう？」  
子ども②「いいね」 子ども③「私たちはトマト姫だからマットの色は赤にしようよ」  
子ども①「やってみよやってみよ」 保育者「トンネルになってるのいいね」  
子ども①「私が考えたのいいでしょ」  
など役になりきり子どもたち同士で話し合い作品を作り表現していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

動くことは好きだが、前を見ずにぶつかりそうになったり、転んだりする姿もあった。毎日運動遊びを行う事によって子どもたち同士でぶつかりそうになった時に回避出来るようになり、転倒した際にすぐに手が出るようになったように変化した。

戸外でもすぐに「疲れた」という子も減ってきて、運動が好きになっていることを感じる。

身体を動かして表現して遊ぶ際にもイメージしたものを話し合い表現していく姿が見られ、子どもたちの表現の幅が広がった。

身体を動かす習慣を作ることで、体力がつくだけでなく怪我をしないようにするにはどこに気を付けるか？どこが危険箇所か？などを考え集中力が長くなったり、自分たちで平均台やマットを組み合わせる出来るサーキットを考えて、やってみて、形を変えてみたり、など主体的な行動も見られた。ケガをしないように、と集中して行おうとすることで大きなケガも減ってきている。また、体力がついたことであるき遠足の実施や昼寝なしで、夜に一定時間寝ることで朝、スッキリ目覚める習慣へと繋げられている子も出てきた。「早寝早起き」の習慣が出来てきた子もおり、朝からイキイキと活動できることに繋がっている。今後も、「朝活」「運動あそび」の習慣を継続し、健康的な生活習慣や子ども達の運動量の増加を目指すことで、主体的な活動もすすめていきたい。